

国・県とは対等の立場で協力・連携

私の一般質問で村山市長言明

14日、村山市長にたいして初の一般質問を行いました。以下はその要約です。

【橋爪】記者会見で、あなたは木浦市政の後継かと問われて、否定された。「木浦さんとは性格が全く違う。政策の切り口も違う」とのべられたというが、切り口はどう違うのか。

【村山市長】国政における政権交代など、激しい社会情勢の変革の中にあつて、地方の行政には様々な場面で臨機応変な対応が求められる状況だ。これまでの市政の中で実施してきた各種施策や行政サービスの在り方等について、その内容や手法なども十分に精査した上で、より発展的に変えていく必要がある。

【橋爪】国や県との関係では、上越市という一国の主として自主的な判断が重要となる。どういう姿勢で臨むのか。

【村山市長】市民に最も身近で、市民の思いや願いに寄り添うことができる基礎自治体として市が、国と対等の立場で、十分な連携を図って



いける仕組みづくりが実現されてこそ、真の地方分権が確立するものと考えている。県とは、私が持つネットワークも最大限に活用しながら、対等な立場での協力・連携の関係をこれまで以上に深め、スピーディー

で効果的な市政運営に資してまいりたい。

【橋爪】あなたの公約、「3つの約束と10の決意」の中には、すぐやれることと、時間をかけての検討、研究を要するものもある。すぐにやれることはどんなことか。

【村山市長】公約で約束した中には財源を確保すれば可能なもの、市民の皆さんのご理解をいただく中で整理をするものが混在している。最終的な予算編成という過程を経ながら、中長期の財政状況を見ながら、その中の事業の見直し、総ざらえを含めて財源の手当てをするということが事業の予算化に結びつく。行政の中で瞬時に実現することにはならない。

【橋爪】私の質問は非常に簡単だ。すぐやれることとできないことの整理はついているか。

【村山市長】予算編成を通じてその作業をしている。

【橋爪】予算編成の前に整理されていなければならぬことだ。例えば、市長、副市長の給与削減については財源があるかどうかは関係ない。市長が決断すればすぐできることだ。整理してあるなら示して欲しい。

【村山市長】それも含めて予算編成の中で作業をしている。

【橋爪】政策の優先度も公約を発表するまでに市長自身が整理されていたはずだ。発表されたものは市長自身の頭の中で、順位付けがされていたのではないか。

【村山市長】私が市民の皆さんに訴えた項目は多岐にわたっている。整理をする中では当然、私自身が取り組む思いが入っている。

【橋爪】掲げられている順番は市長の思いが果たした順番になつていてという理解でいいか。

【村山市長】そのとおりだ。

【橋爪】公約のひとつに「行政組織を抜本的に見直し、親切・迅速・活力ある市役所をめざす」とあるが、いまの行政組織の課題と問題点をどのように考えているか。

【村山市長】当市の行政組織は、いわゆる「縦割り」の弊害のほか、職員が少人数の課では突発的な事案に機動的に対応することができないなど、いくつかの弊害も生じており、このことが市役所全体の業務の効率性にもマイナスの影響を及ぼしている。さらに、直面する重要課題に対して、財政的、政策的、あるいは行革の観点等も含め、総合的に調整する機能の強化が必要であるとも考えている。

現在、このような点を課題や問題として整理しながら、その改善に向け、鋭意、行政組織の見直し作業を進めているところだ。

シリーズ 上越市内の橋

第20回 横住橋



「横住橋」と書いて「よこずみばし」と読みます。保倉川の支流、高谷川にかかっています。ここから牧区へと抜ける道は素敵な棚田風景を楽しむことができます。

近くに宿泊施設「月影の郷」があり、越後田舎体験の拠点となつています。冬の「人間ばんばレース」は有名。橋長は約19メートル。1992年（平成4年）12月竣工です。